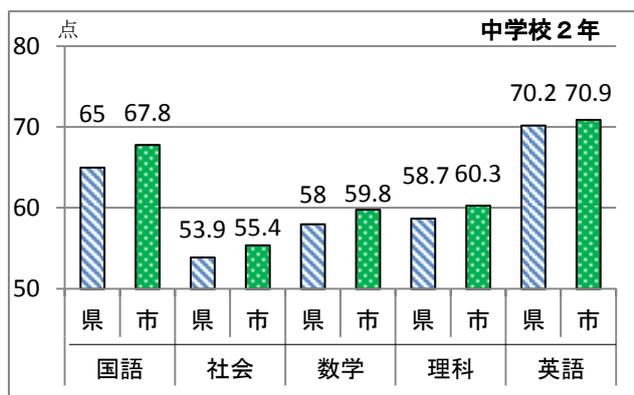


平成28年度千葉市学力状況調査結果概要（中学校版）

1 県と本市の平均正答率との比較



【全教科、県平均を上回り良好】

- ◎国語は2.8ポイント県平均を上回り、良好であると言えます。
- 社会、数学、理科、英語は、県平均を0.7～1.8ポイント上回り、概ね良好であると言えます。
- ▲検査問題が異なっているので単純には比較できませんが、英語については前年と比較すると県平均との差が小さくなっています。

2 各教科の改善策

【国語】 言語に関する知識・理解を深め、目的を明確にした言語活動の充実

- 批評文や記録文、論理的な文章を書く言語活動をとおして、文章の効果的な構成方法についての理解を促す。
- 古典の学習において、音声や映像メディア、古典の現代語訳や関連図書の紹介などを行い、「古典に親しみを持つ」工夫をする。

【社会】 知識・技能を活用し、見方・考え方を働かせた思考力・判断力・表現力の育成

- 様々な資料を意図的に活用し、事象を比較・関連付けて理解・追究できるようにしていく。
- 習得した知識・技能を活用する学習場面を設定し、思考・判断・表現する力を育成する。

【数学】 数学的活動をととした指導の充実

- 関数の特徴を表、式、グラフを用いて捉えさせ、事象の考察において、用語を用いて相互に関連付けた説明ができるようにする。
- 数学的活動を行う際、身に付けた知識や技能を用いることで問題解決できることを実感させ、さらなる主体的な取組を促す。

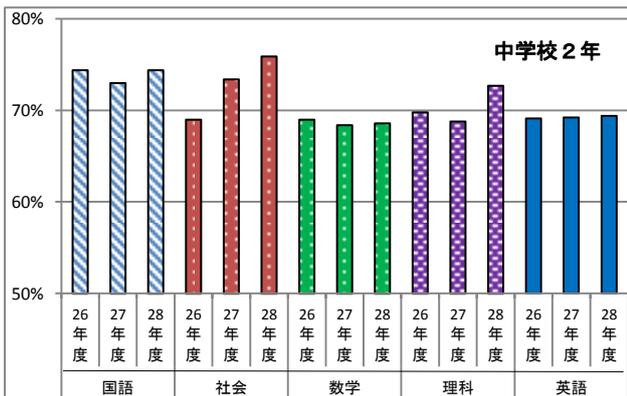
【理科】 目的意識を持たせた観察・実験、根拠をもとにした思考力・判断力の育成

- 観察や実験においては目的を十分に理解し、予想を立てたり、方法の留意点や誤操作等の問題点を挙げたりして、見通しを持って取り組むようにする。
- 観察や実験の結果分析においては、資料等から科学的な根拠に基づいて考察する活動、モデル化して考え表現する活動、既知の知識や考え方を活用する活動等を取り入れる。

【英語】 「聞くこと」、「書くこと」の基本を再確認

- リスニングにおいては対話の流れを意識したり、聞き取った英文を書取る活動（ディクテーション）を取り入れたりしながら聞く力を高める。
- 一定期間に学習した単語をまとめて復習する機会をつくったり、家庭で綴りを練習したりする時間を確保することで、正しく単語を綴ることができるようにする。

3 学習に対する意識（学校の勉強がわかる）



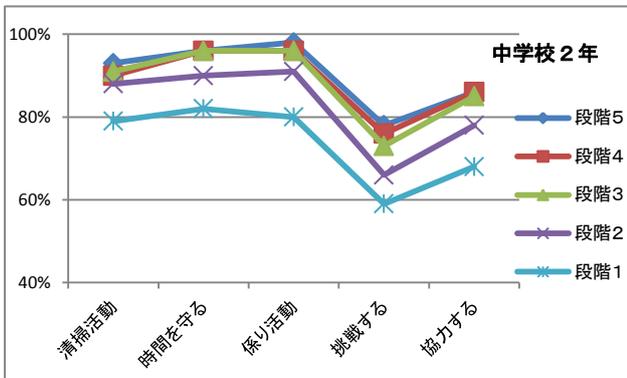
「国語・社会・理科がわかる」割合は70%以上

国語と社会と理科の学習がわかるという回答の割合が高い。

特に社会は年々上昇しており、理科は前年度に比べ、3.9ポイント向上している。

4 学力と学校生活との関連

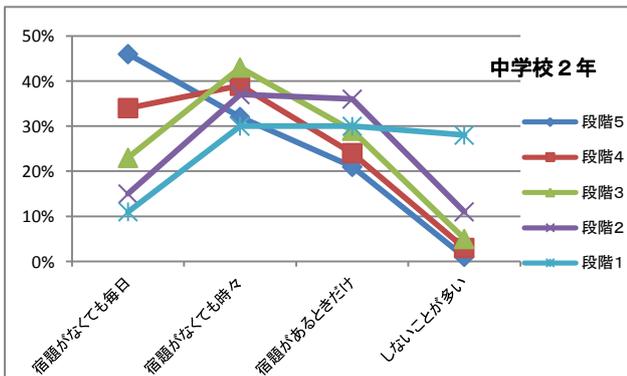
標準偏差により、段階5から成績上位群としている。



「成績上位群・中位群」と「成績下位群」で大きな差がある

「成績上位群・中位群」と「成績下位群」で肯定的回答率の割合に大きな差が開いている。

5 学力と家庭学習との関連



「成績上位群」は家庭学習によく取り組んでいる

「成績上位群」は宿題がなくても毎日、「成績中位群」は時々している子の割合が大きい。

「成績下位群」では小学校3年、5年とも比べると、学年が上がるにつれて宿題があってもしない子の割合が大きくなっている。